500 MeV Proton の Beam Dump (II) Induced Activity とその Level 荒木田是夫,稲垣隆雄,熊田稚之,徳本修一,平山英夫,福崎誠也,宮島光弘,山口博司高エネルギー研

(I) T報告された Beam Dumpの性能を調べると共に、今後の設計に必要をデーターを得る且的で、
(I) Dump 中に生成される核種を調べる為に、測定孔に鉄パイプに入れた鉄試料 $(2/mn^p \times 20mm, 2/mn^p \times /0mm)$ を抽入し、照射後取り出し、Ge (2i) 検出器で測定すると共に、生成核種による Dump 中の放射線レベルを知る為に、照射後、測定孔にサーベイメーターを抽入して測定を行うった。

(2)照射中の乙次粒子の分布を調べる為に、上記鉄試料の間に放射化検出器として、アルミョウム (14 mm ϕ × 5 mm)、銅 (20 mm ϕ × 3 mm)、金 (10 mm×10 mm×0.05 mm) も入れ、照射後、Ge(Li)検出器で測定さ行った。

名次粒子の分布については,第4回に, $^{27}Al \longrightarrow ^{24}Ma$ による ^{25}Ma の分布と, ^{25}Ca による ^{25}Ca の分布を,第5回に, $^{197}Au(n,r)^{198}Au$ による ^{198}Au の分布を示す。 ^{25}Ma , ^{58}Ca の分布は,いづれも陽子の入射点近くに鋭いピークを持ち,線量率の分布と良い一致を示している。しかし、 ^{188}Ma の分布によって示される熱中性子は,第4回の分布と異るり,Dump 全体に,点線源から拡散している様を分布をしている。

以上,今回の測定によって Dump 内外の残留放射線レベル等,最低必要をデーターは得ることができたが,今後の設計に使用できる様をデーターにする為には,(1)線量測定法を改善し,測定点,測定値の精度をあげること,(2)2次粒子の分布は粒子エネルギーによって変化しているので、分布をより正確に知る為に,照射試料の種類と数と増やして測定することが必要である。









